

業務需要に対応した多収性カラーピーマンF₁品種の育成

ピーマン育種コンソーシアム代表機関 宮崎県総合農業試験場

背景・目的

- 大型カラーピーマンは9割を輸入に依存しており、市場や加工事業者からは、国産を求めるニーズが強くなっています。
- 国内の栽培においては、輸入品種を利用しており、種子価格が高く、栽培条件に適する品種が少ない状況です。
- そこで、国産カラーピーマンの新品種育成に取り組みました。

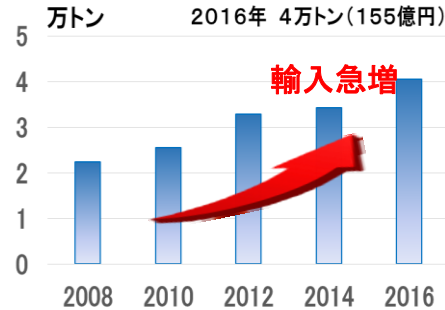


図1 年次別大型ピーマン輸入量 (財務省貿易統計)

成果の内容

- 薬培養技術(育成期間を短縮できる技術)を活用して新品種を2品種育成しました。
- ① 黄色カラーピーマン‘Pプロ15-635’ 加工適性が高く多収性
- ② 赤色カラーピーマン‘Pプロ15-65’ 辛みを有し多収性

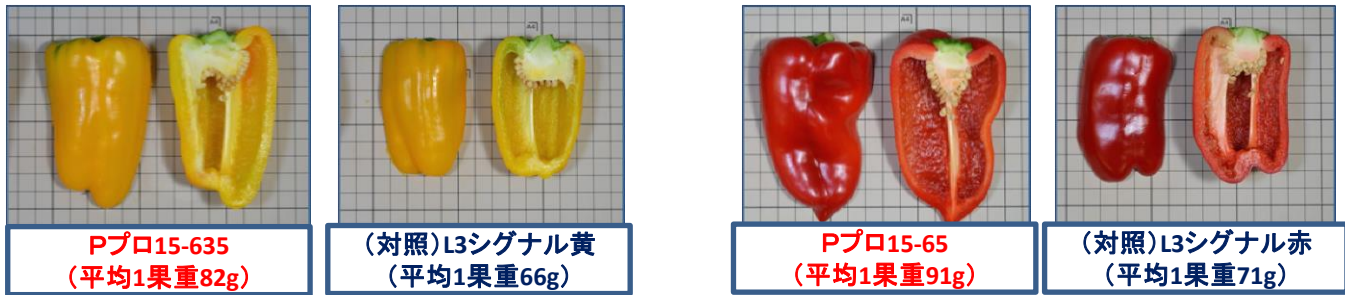


図2 果実の外観及び断面図

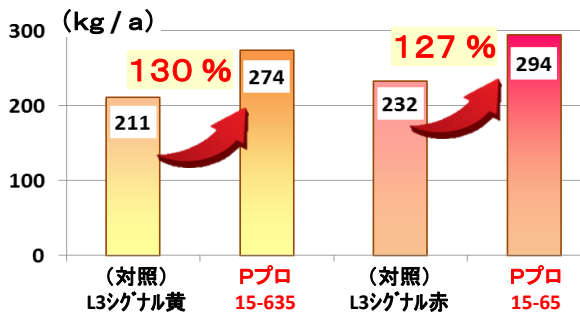


図3 収量(可販果)

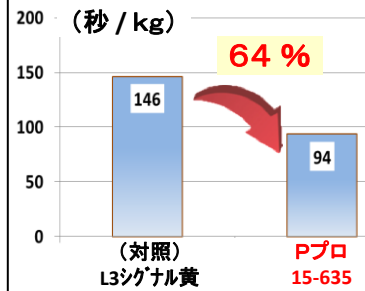


図4 ‘Pプロ15-635’の事業者による加工処理時間

‘Pプロ15-65’の外部評価(食味)

- ・ 食材に辛みが移り食味良好
- ・ 食感が良い
- ・ 油に良く合う
- ・ パスタ、サラダ、和食などに使用可能

期待される効果

- 多収性による農業所得の向上や、加工事業者からの引き合いの増加が期待されます。
- 辛みの特性を活かした新たな販路拡大が期待されます。

留意点

- 促成及び雨よけ栽培において栽培が可能です。
- ‘Pプロ15-65’は、果実内部の白い部分(隔壁・胎座)に辛み成分が多く、取り扱いには注意が必要です。
- 有利販売(数色セット売り)等のため、今後とも、赤色や橙色の更なる品種の育成に取り組みます。

本研究は農研機構生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行いました。